

「学習と部活動の両立」に取り組む、大村高校の様子をお知らせします。



大高インフォメーション

ホップステップ JUMP!

〒856-0835 長崎県立大村高等学校 大村市久原1-591 TEL.0957(52)2660
http://www.news.ed.jp/omura-h/保護者の方へ
メールアドレスにご加入ください。

大高生 全国の舞台での活躍



放送部

○第46回全国高等学校総合文化祭

アナウンス部門 **優秀賞(最高賞)**
尾崎 美雨(郡中)朗読部門 **審査員特別賞**
黒川 莉那(西大村中)

○第69回NHK杯全国高校放送コンテスト

朗読部門 **優秀賞(全国3位)**
黒川 銀杏(玖島中)

入選

新宮 美桜(玖島中)

守・破・離

長崎県立大村高等学校
校長 原 昌 紀

今年の夏は、早い時期から猛暑が続きましたが、9月になって暑さも和らぎ、最近は学習や運動、読書と何をするにも集中できる季節となりました。未だコロナ禍の中ですが、大高生は、「両道不岐」のもと、それぞれの目標に向かって、前へ進み続けています。

標題の「守・破・離」とは、武道や茶道など修業の段階を表す言葉です。言葉のルーツに関しては諸説ありますが、確かなことは、武道や茶道などにおいて、独自の境地を開き、その道を極めた偉大な先人達に共通した教えであるということです。

「守」は、基本を忠実に受け入れ、基礎を大切にしている段階を意味します。「破」は、基本をしっかりとし身につけた次の段階として、自分の考えや工夫を取り入れることにより基本から脱皮し、独自のものを生み出し、個性を生かす段階を意味します。最後の「離」は、工夫やアイデア、個性を充実させ、全く別な流派を打ち出せるほどに成長していく段階を意味しているのです。

「守・破・離」の意味することは、「守」（基本）を大切にすることこそ、新たな成長があること。また、「守」だけにとらわれるのではなく、自分なりの工夫とアイデアを取り入れて、基本から脱皮する心構えが大切さであるという

ことです。そして、これは武道や茶道に関するばかりではなく、学校生活や卒業後社会に出てからも通じることなのです。

学校や社会など様々な場面において力を発揮できる人は、常に「守・破・離」を心掛けている人だと思えます。基本を大事にしながらも、それだけにとらわれず、それをもとに発想の転換を図ったり、新鮮なアイデアを取り入れたり、常に向上を心掛ける人が成功していくのです。今に満足するのではなく、少しでも向上を目指す心となること、が、「守・破・離」の教えなのです。

また、壁に当たり、何かに悩んだ時には、「守」に戻り、基本に立ち返って考えることです。例えば、剣道で、中々上達しない時には、知らず知らずのうちに自分の悪い癖が出てくる場合があります。その時は基本に立ち返り、足掻きや素振りを通して癖を直すとうまくいくものです。

尚、「守」は基本を習うことですが、初心に戻ることももあります。「自分はこんな夢を持っていた」、「こんなことをやりたかった」など、初心を思い出すことによって、目覚めたり、舞臺を乗り切る元気を取り戻すことができます。基本を大切に、初心を大切にすることによって、上達、成功の道が開けてくるのです。

1、2年生は、各部門ともが新体制となり、各々基本に立ち返りチームの強化を図っていることでしょう。3年生の多くは、進路実現に向け、各教科の基礎基本を再確認しながら、学習に励んでいることと思います。「守・破・離」の教えを念頭に、常に向上心をもって、これからの高校生活を頑張る大高生にエールを送ります。

科学研究・3年生課題探究発表会

7月21日(木) シーハットおおむらメインアリーナ

今年度は、初の試みとして、シーハットおおむらメインアリーナを会場に、理科部や3年生がそれぞれ取り組んできた科学研究や課題探究の発表会を実施しました。他校の先生方、保護者、大村市内の中学生等、総勢100名以上の参加を頂きました。午前中はポスター発表、午後は代表班による口頭発表を行いました。また、SSH事業第1期5年目ということで、これまでの取組を振り返るための報告会及びパネルディスカッションも実施しました。



SSH 生徒研究発表会

8月3日(水)、4日(木) 神戸国際展示場

全国220校のSSH指定校の各代表が一堂に会して課題研究の成果を発表しました。本校からは、柿本紗弥さん、福田結衣さん両名による「長崎県島原半島の温泉に生息する細菌類とプランクトン類について」の研究発表が代表として参加しました。残念ながら本校は、口頭発表の代表校6校には選出されませんでした。審査員を務めた大阪大学の教授の方から、新発見のワムシが高く評価され、今後の研究の発展に期待を寄せられました。



部活動結果 ()は出身中学校

ソフトテニス部女子

- 全国高等学校ソフトテニス団体選手権 7年連続出場
- 長崎県高等学校ソフトテニス選手権島原大会
- 優勝 小林 美(西大村)・村川 梨花(北津早)
- 第3位 宮沢 幸来(白宇)・江川 吉菜(鶴屋)

漕艇部

- 全九州高等学校体育大会ボート競技会 少年男子シングルスカル 第1位 坪森 省吾 (筑島)
- インターハイボート競技会 少年男子シングルスカル 第7位 坪森 省吾
- 熊本県九州ブロック大会
- 少年男子シングルスカル 第1位 坪森 省吾
- 少年女子舵手付きオドルブル 第2位 山口 朝葉(郡)・尾上 幸哉(東彼杵)
- 深瀬 ゆず(桜が原)・徳口 珠堡(筑島)
- 少年男子ダブルスカル 第4位 荒木 透也(筑島)・濱邊 咲太郎(郡)

水泳部

- 第45回 全九州スイミングクラブ夏季水泳競技大会
- 200m 平泳ぎ 第1位 保利 剛次(西大村)
- 100m 平泳ぎ 第2位 保利 剛次

テニス部男子

- 令和4年度 長崎県高等学校体育大会テニス競技 中地区新人大会
- ダブルス 優勝 島井 洗希(郡)・平山 隆仁(郡)

テニス部女子

- 第2回 長崎県テニス協会会長杯
- 1年女子シングルス 優勝 野田 麦子(大村)
- 令和4年度 長崎県高等学校体育大会テニス競技 中地区新人大会
- ダブルス 第3位 前川 菜穂(大村)・宮田 麦子

吹奏楽部

- 第67回長崎県吹奏楽コンクール 銀賞

SSH

- 令和4年度 WWL長崎フォーラム 優秀賞
- 研究テーマ「温度による蚊の羽力の変化」
- 松本 美紀(郡)・花岡 直樹(西大村)・藤崎 翔陸(筑島)

弁論

- 第72回「社会を明るくする運動」中学・高校生 大村・東彼杵地区
- 高校生の部 最優秀賞 清浦 愛良(桜が原)
- 第72回「社会を明るくする運動」長崎県弁論大会
- 優秀賞 清浦 愛良



ソフトテニス部女子

数理探究科

English Fair (1・2年)

7月4日
・15日

本校と大村市教育委員会のALT 8名の協力のもと、英語でのアクティビティや、ALTの先生方の母国についてのプレゼンテーションを聞いて英語で質問をしたりと、英語漬けの半日をご過ごしました。それぞれが

自分の英語力を駆使して楽しみながら積極的にコミュニケーションを取り、今後の英語学習のモチベーションにつながったようです。



長崎県立大学高大連携理科実験 (2年)

8月23日

長崎県立大学看護栄養学部にて「分子レベルで考える漂白洗浄」「遺伝子工学にふれるーDNAを切ってみようー」「発酵食品の醸造に関与している微生物の観察」の3班に分かれて、実験を行いました。

生徒の感想 (抜粋)

「漂白剤のラベルに書いてある成分を比較して働きを考察するのが楽しかった。」「遺伝子工学は、生物の分野であるが化学や物理の理論を使ってあり、科学分野を幅広く勉強したいと思った。」「発酵食品に関するコウジカビを顕微鏡で観察したり、自作の甘酒を飲んだりしたのは初めてで、とても楽しく充実していた。」

このように、数理探究科では、専門機関での実験・実習を体験し、自然科学への興味関心を高め、進学や将来のビジョン(具体的な目標)に結び付く活動を実践しています。



家政科

ウォーキング講座 (3年)

9月16日

スターライトスクールから松原里奈先生をお迎えし、五教祭のファッションショーに向けてウォーキング講習を行いました。ヒールを履くのも慣れない中、姿勢を保ちながら歩くのはとても難しいと言いながら、ファッションショーで皆さんに喜んでもらえるように練習を重ねました。最後は自分で作ったドレスを着てウォーキングの練習をしました。制服よりもさらに歩くのが難しかったです。



オープンスクール (2年)

7月29日

オープンスクールで家政科を希望する中学生に対し、家政科2年生が主体となって「ポーチ製作」「バタバタ絵本」の講座を行いました。

生徒の感想

私は、オープンスクールで中学生の支援をしてみたい、最初は自分が上手く話せるか、しっかり教えてあげられるかとても不安でした。ですが、私がアドバイスや大村高校の魅力などを伝えると、それに中学生が笑顔で応えてくれて、自分に自信をもって接することができました。私は今回のような形で人と関わることがあまりなかったので、中学生と関わる中で気づいたこともあり、良い経験になりました。

家政科2年 野田 奈乃羽 (東彼中)



クラスマッチ

7月11日
・12日

今年のクラスマッチは、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ドッジボールに加え、室内種目オセロ、将棋の全6種目で行われました。感染予防対策のため、応援に制限がかかっていましたが、各競技とも白熱した試合が行われました。今年も各クラスの体育委員を中心とし、生徒全体で開催に向けた準備を行いました。雨のため試合が中断することもありましたが、無事に開催することができたのは、全校生徒の皆さんや先生方の協力があったおかげだと思います。特に、3年生が楽しそうに試合に熱中している姿が印象的でした。3月のクラスマッチでも、皆さんが心から楽しかったと思ってもらえるようなクラスマッチにしたいと思います。ぜひ楽しみにしてください。

生徒会総務 久東 和佳 (郡中)



体育祭

9月11日(日)



体育祭実行委員長 松尾 彩加(雷瀬中)

体育祭実行委員長になり、最初は不安が大きかったのですが、先頭に立ってみんなをまとめることの大変さなどを学びました。体育祭では、今年度のスローガンである「星火燎原」のもと、大高生一人ひとりが練習の成果を発揮し、大高体操や仮装、応援など、素晴らしい演技を行うことができました。皆さんのおかげで最高の体育祭を作り上げることができたと思います。この経験をもとに、これからも積極的に行動していきたいです。



赤ブロック団長 弓井 優(川畑中)

団長になり、最初はなかなか思うようにいかないこともありましたが、みんなで意見を出し合い、本番では最高のパフォーマンスを行うことが出来ました。練習から本番まで、全員が協力をしてくれたおかげで、心に残る体育祭になったと思います。1・2・3年生、先生方、本当にありがとうございました。

青ブロック団長 藤崎 祐希(大村中)

私は人生初の団長で、大人数をまとめる重役を担い、先頭に立つ大変さや本気になって取り組むことの楽しさを知りました。最初は不安だらけでうまくいか心配でしたが、体育祭が近づいてつれて各団の結束力も強くなり、大高生一人一人が主役となってキラキラと輝く体育祭となりました。全員の協力がなければ成しえなかったと思います。本当にありがとうございました。

黄ブロック団長 伊井 慧佑(沼津中)

今年の体育祭は去年より規模が拡大して多くの人が競技を行い、笑い合える思い出深いものになりました。僕は団長としてうまくできないことがほとんどでしたが、3年生だけでなく1・2年生も協力してくれたおかげで総合優勝をとることができました。交えてくれたすべての人に感謝しています。ありがとうございました！

緑ブロック団長 久世 蓮心(沼津中)

今回の体育祭は緑組全員が心を一つにし、本番では素晴らしいパフォーマンスが披露できました。緑組は賞状こそ少なかったものの、仲の良さは群を抜いていたので、「チームワーク部門」があれば緑が一番だったと思います。初めての応援団長で不安も感じていましたが、最後までついてきてくれた緑組の皆さんありがとうございました。

「自ら探し求める」

文理探究科での探究学習

「知りたい」、「学びたい」からはじまる新たな出会い あなたの「？」を大切にします。

1年次 「社会を知る」

- ・社会や自然を見るための基礎的な力を身に付けます。
- ・フィールドワークや取材など様々な体験を通して探究する基礎力を伸ばします。



2年次 「社会を探究する」

- ・理数探究や国際探究の専門性を生かし、融合させながら探究活動を行います。
- ・大学や企業、市や県と連携しながら社会にアクションを生み出す研究を行います。



3年次 「社会に新しい価値を創造する」

- ・大学や自治体等に研究成果を発表し、社会課題に対する提言を行います。
- ・各種コンクール、大会等で行うことで、研究成果を発信します。

